



日本語異表記の作り方(原則)

ご参考用

<p>これは、財団法人日本規格協会発行のCD-ROM版 JIS工業用語大辞典 with HT³を編集時に作成したものです</p>		<p>1. 解説欄からの異表記 解説欄の【慣】、「ともいう」で書かれている用語を異表記欄に入力する。</p>		<p>2. () の排除 標準表記に()は用いない。()がついていた場合には、()内の語を省略した表記を標準とし、付与したものを異表記とする。 [例]見出し語:落下(事故) 落下 落下事故</p>		
<p>3. 省略形 省略なしを標準表記とし、省略形または略号を異表記とする。 [例] フロッピーディスク F / D、F D、フロッピー</p>	<p>4. 漢字の扱い 常用漢字外にひらがなを使用する場合及びひらがなやカタカナで表記されているが該当漢字がある場合は、ひらがな表記を標準表記とし、漢字表記を異表記とする。</p>	<p>5. 和語の優先 和語とカタカナ表記がある場合は、和語を標準表記とする。 [例] 立上げ スタートアップ</p>	<p>6. 送り仮名 送り仮名をミニマイズしたものを標準表記とする。音読みがある場合は、音読みの方を優先する。 [例] 書込み 書き込み、書込、書きこ</p>	<p>7. 似た漢字の扱い 意味が似ている漢字がある場合 [例] 機械 器械 形式 型式</p>		
<p>8. 数字の扱い ローマ数字は、アルファベットの I (アイ)、V (ヴィ)、X (イクス)、を標準表記とし、<u>、</u>、<u>、</u>などの外字を異表記とする。 [例] I <u>、</u>、I I <u>、</u>、 I V <u>、</u>、I X <u>、</u></p>	<p>9. 単位 単位記号を標準表記とし、カタカナ表記を異表記とする。但し、標準表記はアルファベットの組合せを用い、ml、cm、kgなどの外字は異表記とする。大文字、小文字を正しく使用したものを標準表記、間違ったものを異表記とする。 [例] m l ml、ML、ミリリットル、ミリ</p>	<p>10. ギリシャ文字 ギリシャ文字は、ギリシャ文字そのものを標準表記とし、カタカナ表記を異表記とする。 [例] ガンマ、ガンマ</p>		<p>11. 固有名詞の扱い 固有名詞はカタカナ表記を標準表記とし、スペルアウトしたものを異表記とする。 [例] ウィグナー効果 Wigner 効果</p>		
		<p>13. 外来語の長音符 外来語をカタカナ表記する場合は、語尾等の長音符を省略したものを標準表記とする。 [例] インタフェース インターフェー</p>				
<p>14. 拗音 カタカナの拗音がある場合は、小さな字を標準表記とする。 [例] ソフトウェア ソフトウエア</p>	<p>15. 外来語の長音符 外来語をカタカナ表記する場合は、長音符を表記したものを標準表記とし、母音字で表記したものを異表記とする。 [例] インタフェース インタフェイス</p>	<p>16. 外来語の扱い 外来語をカタカナ表記する場合は、イ列・エ列の音の次のアの音に当たる用語については、アを標準表記とし、ヤを異表記とする。 [例] ギア ギヤ</p>	<p>17. 外来語の扱い 外来語ファ、フィ、フェ、フォをカタカナ表記する場合 [例] インフォメーション インホメーション</p>			
<p>18. 外来語の扱い 外来語の接頭語 ex-をカタカナ表記する場合 [例] エクゼキュート エクゼキュート、エクスキュート、イクセキュート、イクゼキュート、イクスキュート</p>	<p>19. 外来語の扱い 外来語ティ、ディをカタカナ表記する場合 [例] スチーム スティーム</p>	<p>20. 外来語の扱い 外来語の xe-をカタカナ表記する場合 [例] キセノン クセノン</p>	<p>21. 促音 促音表記がある場合 [例] メソード メソッド、メソド ストレージ ストーレージ、ストレッ</p>	<p>22. 濁音 現代かな遣いジ、ズを標準表記とし、ヂ、ヅを異表記とする。 [例] ディーゼルエンジン ディーゼルエンヂン</p>		
<p>23. 濁音 V音について バ、ビ、ブ、ベ、ボを標準表記とし、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェ、ヴォを異表記とする。 [例] バキュームクリーナ ヴァキュームクリーナ</p>	<p>24. 外来語の扱い 外来語の ge-をカタカナ表記する場合 [例] ゼネレータ ジェネレータ</p>	<p>25. 外来語の扱い 外来語をカタカナ表記する場合は、接頭語 re-については、レを標準表記とし、リを異表記とする。 [例] レポート リポート レヒート リヒート</p>	<p>26. 外来語の扱い 外来語の en-をカタカナ表記する場合 [例] エンクロージャ インクロージャ</p>			
		<p>28. 格助詞入りの語 格助詞の入ったもの(例: ~の...、~を...)を異表記とする。品詞が変化する可能性もある。 [例] システム立上げ [10] システムの立上げ [10] システムを立上げ [21]</p>				
<p>29. 中点 中点(・)のないものを標準表記とする。 [例] クローズリミットスイッチ クローズ・リミットスイッチ、クローズ・リミット・スイッチ</p>	<p>30. スペース スペースのないものを標準表記とする。 [例] クローズリミットスイッチ クローズ リミットスイッチ</p>					

例の見方

1. 標準表記・異表記が提示されている原則
[例] 標準表記 異表記

2. 「~の場合」となっている原則
[例] 表記1 表記2
(表記1、表記2ともに標準表記・異表記になり得る)

ご参考用

英語異表記の作り方(原則)

1. () の 排 除 標準表記に () は用いない。() 内の語を省略した表記を標準とし、() 内の語に置き換えた表記を異表記とする。 [例]見出し語： type dust collector (separator) type dust collector type dust separator	2. スペ ル フルスペルを標準表記とし、略号を異表記とする。 [例]floppy disk F/D,FD
--	---

これは、財団法人日本規格協会発行のCD-ROM版 JIS工業用語大辞典 with HT³を編集時に作成したものです

3. スペ ル 英語と米語でスペルが異なるなど複数のスペルがある場合 [例]vapour vapor -sation / -zation *一覧表参照のこと	4. スペ ル 単・複数形や動詞の活用が不規則変化をする場合(特に用語の頭・用語の中の単語) [例]knife line knives line pressure break pressure broke pressure broken
--	--

5. 同 義 語 意味は同じ単語が複数ある場合 [例]function facility test check
6. ハイフ ン 最新の辞書通りのものを標準表記とし、逆のものを異表記とする。 [例]32-bit 32 bit digital video-interactive digital video interactive
7. ス ペ ー ス スペースのないものを標準表記とする。 [例]ELBUS EL BUS
8. ギリシャ文字 ギリシャ文字は、フルスペルを標準表記とし、ギリシャ文字そのものを異表記とする。 [例]gamma beta
9. 数 字 の 扱 い 標準表記は、スペルアウトしたものとし、算用数字を異表記とする。 [例]two-dimensional array 2-dimensional array
10. 単 位 単位記号を標準表記とし、スペルアウトしたものを異表記とする。但し、標準表記はアルファベットの組合せを用い、ml、cm、kgなどの外字は異表記とする。大文字、小文字を正しく使用したものを標準表記、間違っただけのものを異表記とする。 [例] ml ML, milliliter

例の見方

- 標準表記・異表記が提示されている原則
[例]標準表記 異表記
- 「~の場合」となっている原則
[例]表記 1 表記 2
(表記 1、表記 2 ともに標準表記・異表記になり得る)